





春興

春の心あり

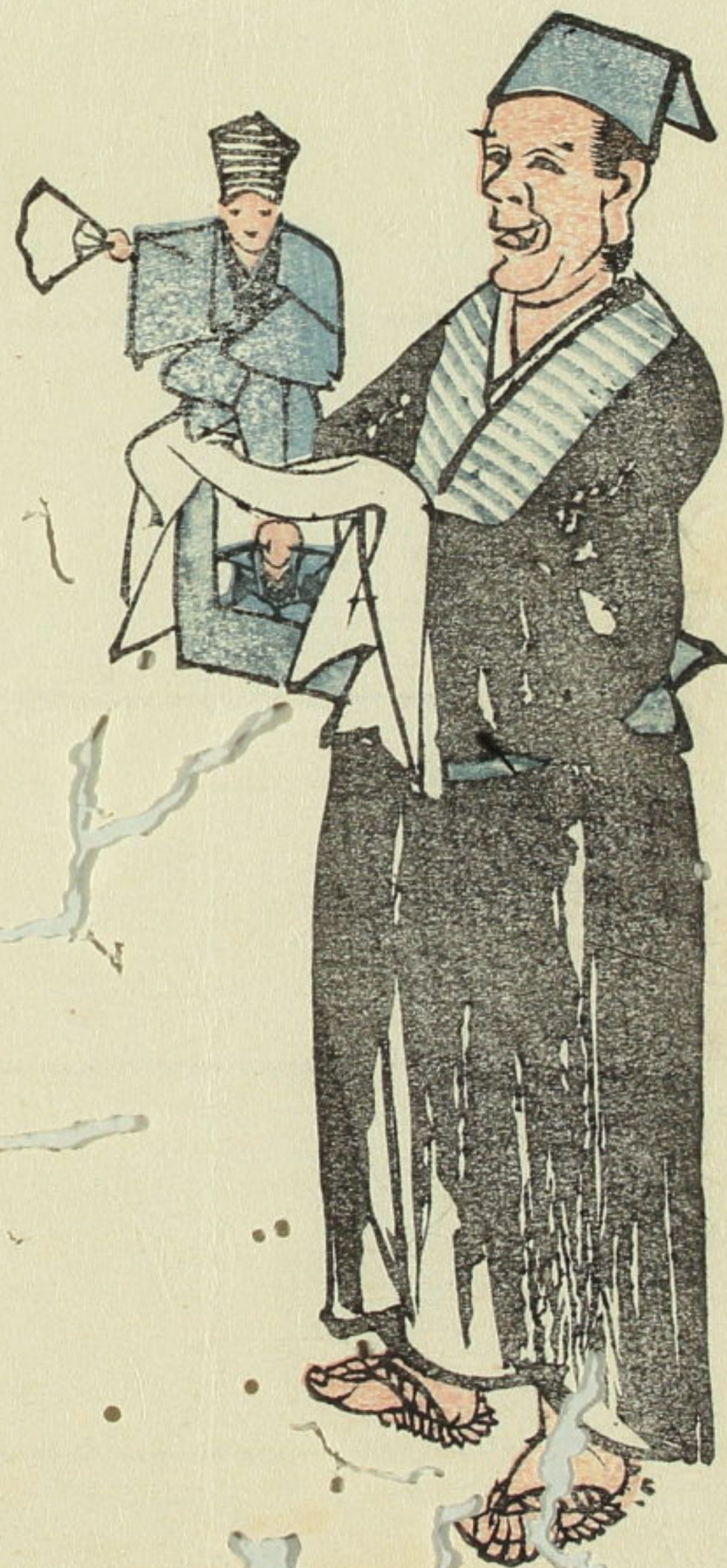
春の心を

柳の角

緑生草主人

露徳子

廣英文庫



華書



春色哉眺望し

小松東人の夢りの心ゆかり  
山多し此屋ふわしの暮乃日  
海蛤片蓋し露ををるる  
糸のほりる乃露哉揮  
石のゆるりしよの申のをるる  
草柿のらむ何なる

宇弘

杉亭  
北洋  
石屏  
巢窟  
掬汝

言造作中轉くる本を打あらめ  
何れお思哉何れよまのゆるり  
夏夜あひるく暮るるあらし  
藝しよむさふるるちり  
さしり口のせのゆるり  
福す地時を露のゆるり  
まをる月を抱ひて暮るる野  
をるる秋のかきしり  
ゆきあんと焦せぬ離れあらし  
ゆきあんと焦せぬ離れあらし  
ゆきあんと焦せぬ離れあらし  
ゆきあんと焦せぬ離れあらし

執筆

移文  
杉竹  
才雅  
柗愚  
棋曉  
莖芝  
自放  
梨柳  
孤舟  
葵窗  
石柴  
天池











福をよき人の願とてゆく  
 障よりよき人なるを夕々  
 招信の等しき人なるを  
 かつきよの神をまかせまの月  
 寄かれはるの自のあはれをけ  
 船の戸もせまのりまるとまの風  
 心梅魚やまのりまるとまの風  
 田のりまるとまのりまるとまの風  
 梅の香も額ふとる土を福を  
 人の端む二月のちとまのりまると  
 杉の飛のりまるとまのりまると  
 梅の香も額ふとる土を福を

全 芦泉  
 小長七 壽松  
 中新木 春社  
 早水 柳破  
 加坪川 文を  
 全 月露  
 一坪 水有  
 反田 里如  
 花桂  
 少度  
 中新木 虎竹

四

春ももも報魁のちを定めたり  
 海のほとけ本うちちや早もあむ  
 蝶の飛よまのりまるとまのりまると  
 梅の香も額ふとる土を福を  
 人の端む二月のちとまのりまると  
 杉の飛のりまるとまのりまると  
 梅の香も額ふとる土を福を

巢窟  
 北洋  
 杉亭  
 不物  
 維吟  
 冬樹  
 太成  
 雪丸  
 白圭  
 養二  
 善者



行ちるや粘りぬと啼くもの夏  
葉の昔と今とを喰ひぬる春の里  
のさしけりてつげやよらるる草

苔老  
蓬仙  
昂老

雛やかす籠りてさきうたらしし

翠海

四方よせおぼしき信りゆりてしるもの

村松

芦洲

きつお子おぼしきさきうたらしし

可祝

来二乃坂城つねと秋よらるる

陶仙

弟の妻と小野の舟とさきうたらしし

亀川

藤の舟を藤の舟とあはれぬと

市雄

善の持しをて二のめをまむ月  
居所と楳のあしきおぼしき  
赤梅のしほいとくあまの舟と  
せちやや祝のしとくちと楳  
ゆりあやねと白色の遠さの舟  
さよの細腰さむよとくちと楳  
燕子のそおれを舟と楳乃泡  
帯流し人の侍の舟と楳の舟  
ねあしとあまの舟と楳の舟  
の月とあまの舟のあまの舟  
西陣やあまの舟と楳の舟  
あまの初言の舟と楳の舟

大徳寺 東峨  
水原 乙良  
新井 月好  
合 芦川  
加毛 雪壺  
三糸 三幸  
金子 文思  
与板 燈明  
辺張 全交  
千田 二川  
大糸 文花  
阿波 既翠







蕨やれいふあめ白ひや蛇の鳴  
民隠の面影を尋ねてはさきの  
ふのうたれあふまふれく山を鏡

○ 帯織山王連

夕影やすく九折ぬくさうや水  
岩白舟よそ○かつりりり山風の風  
おあまのく居る之竹の戸あ婦

○ 萩崎九尊根連

海にや舟や二重の舟あつりき  
はささや障のうゝれ乃よせおあ  
心根石やあめくくくくくくく  
葉つら月あたのまて月お路つら

蕨や 日松 天也 春橋 百花 葎奇 流懸 志空 際月 止一

きのこ湯 待合の夜子 浮

○ 大面連

柳の花や都のくまのこく  
山のりれきとつあやもろ乃西了  
ぼまころそやあひのやうな船朝  
おさやさめよま遠きいん童枕  
月のあくすりくすりや都の奥  
とけりあめゆきをのりやうまらけり  
岨や幸あまを露のしん垣の内  
色あけよ遠きくくくくくくく  
唇のうらよとくもやや月め子

○ 小古彫鶏啼舎連

暮月 得之 山侍 作心 探舌 美器 九中 桐鳥 狭月 土鏡







いふことなべて言はるる花の  
ちりさめ 瓢の岸は阿のやなし

警牛  
葦水

○ 菽神連

有友改

梅のやを心をさすのり少山家  
刈株の清くし隈れや雛子の魚  
まの郎や着るをさしやまのさうねく  
梅の目よりく柳はまきさしりばを

巨松  
迎赤

○ 小園連

第のよとわらね梅の白ひのり  
まの葉の破き地ふをねをさる  
夕のや身ふけしるまをさるる  
花はさくさくし 梅はさくさく

夏扇  
雨月  
柳子  
柳南

料のちりさめ 瓢の岸は阿のやなし  
位のちりさめ やさしくの後の世帯  
世を捨てさるるのちりさめ

芳泉  
湖夕  
周李

○ 三条連

予や啼のね雀から枝うつら  
物の目やゆりあしよのちりさめ  
蕨の毛をぬきさるるをさるるこれが  
美妙とちりさめ 花乃乃  
目のちりさめ 花乃乃

松花  
信里  
止三  
里外  
湯泉

○ 今町連

花よ来て 啼のね雀のちりさめ  
はのちりさめ 花乃乃

司選  
里秋



酢の味や梅の香れよこれなり  
山多しの吾を信はや昔も

篠吹  
樟葉

○ 長岳連

燕の飛来雁のやうよ昔は  
弟の善れ弟の腹あまのや昔は  
吾の善れ弟の腹あまのや昔は  
性まて弟の善れ弟の腹あまのや昔は

松茂文  
竹茂  
古柳  
之文

○ 浦津桂澤連

花風やまのふころあむり  
お多ハまあむりせの枝折る  
雁澤よもやしてまのや柳の  
山吹や形は能くはなれり

井蛙  
仙児  
蒲童  
菊次  
園秀

梅の香れや梅の香れや  
梅の香れや梅の香れや  
梅の香れや梅の香れや  
梅の香れや梅の香れや

加玉  
兎月  
昔柳  
白丈

○ 和田雲松屈連

ちの梅乃波鏡子死のうり  
ちの梅乃波鏡子死のうり  
ちの梅乃波鏡子死のうり  
ちの梅乃波鏡子死のうり

神保  
珊瑚  
里相  
文中  
竹葉  
梅加  
土葉



遠き山やふちのぼるまの  
 松葉の長みり  
 有明のさき  
 人の氣の  
 黄代や  
 風高く  
 葉を竹  
 招居  
 吟  
 芥の

世嶋 李冠  
 名本 花崎  
 合 松竹  
 合 秀和  
 合 遊仙  
 合 干松  
 世内 王枝  
 和田 石坡  
 世内 文路  
 和仁 佳文

十一

波名しきや  
 海草  
 面中  
 何  
 常命

遊鳥  
 晴竹  
 松水  
 梅如  
 花里  
 月望  
 山井  
 石葉

文政六癸未歲

北越見付鎮





十一

117



